

スタディーツアー体験記

専修大学 経済学部

はじめに・・・体験記と題していますが、近頃の一般的な大学生がどのようなきっかけで国際協力にかかわっていくかも踏まえて、僕自身の経験やツアーで感じたことを報告させていただきます。

語学留学から国際協力へ

去年の夏、タイ・ラオスに行く予定を立てながらもいけなかったため、今年は是可否でも海外で国際協力について学びたいという気持ちは固まっていました。僕自身についても少しお話しすると、国際協力とか発展途上国を学びたくてわが大学の経済学部国際経済学科に入学したのではありませんでした。むしろ大学に入ってから語学・・・特に英語を学び習得したいという強い思いがありました。しかし、実際にはそうもいかず、気軽に入ったつもりサークルにどっぷりと浸かってしまい、気づいたらサークルバイト授業英語とやりたいことの優先順位が大きく変わってしまいました。そんなこんなで2年生になり、サークルでは代表をも務めることとなり、いよいよ想像していた大学生で一番なっではいけないと思っていた姿になり始めたとき「ゼミに所属する」という転機がおとずれました。所属している学科は国際経済学科というだけに、ゼミの中では環境経済・日本経済、イギリスやロシア・ドイツの経済を学んだりと選択の幅は広くあります。もちろん英語で経済を学ぶゼミもありました。しかし、不思議と自分が興味をもって絞ったゼミはどれも国際協力やジェンダー・開発経済学といった分野でした。そのなかでわがゼミの教授である狐崎先生のゼミに所属することとなったのが、国際協力に興味を持つ本格的な転機となりました。ゼミでは、途上国の市場や貧困問題、政府のあり方、援助に関する問題を「経済学」という観点から勉強しています。そしていつしか授業はもちろん、国際協力の経験豊富な仲間や先輩の影響もあり、自分も強い興味を持つようになりました。

そして3年になりゼミの教授の特別授業で「NGO論」という授業をとったのがきっかけでこのAPEXのスタ

ディーツアーに参加することとなりました。

授業の一環としてのスタツア

さて、このNGO論の授業について説明しますと・・・まず、前期はNGOについて書いてあるテキストを使いNGO自身について勉強しました。NGOについて勉強すればするほどいろんなNGO団体の良し悪しが見えてきました。先生の評価が辛口というのを抜きにして見てもどの団体もダメじゃん、と思えるほどでした。経済学者の中には各地域のNGO団体の早期撤退を提唱する人がいるほど、経済学とNGOの考えがいろいろと相容れないものも多いことを知り複雑な感情を抱きました。しかし、教授いわく・・・本当によいINGO団体もあるので各自で興味を持った団体のスタディーツアーに参加してほしい、ということで、夏休みを利用してスタディーツアーに行くことが履修の条件でもあるため、各団体が企画しているスタツアを調べることになりました。

まず希望としてはアジア圏であること・比較的安であること・予算は20万・そしてなにより楽しそうであることが僕の希望でした。そうして絞った結果、某団体のフィリピンでのスタツアとインドのスタツアが候補としてできました。しかし、その二つのどちらかで悩んでいると先生に持ちかけたところ、某団体の企画しているフィリピンでのツアーに行くぐらいなら他を行けと薦められ、インドはすでに他の学生2人が行くから違うところがよいといわれてしまいました。

そういうわけで、当初の希望と違うといえば違うのですが・・・APEXが企画するインドネシアのスタディーツアーに行くこととなりました。今となってはいるのはこのスタツアが充実して大学生活におけるかけがえのない体験となったからであるということを追記しときます。

レロロジャ村というステキな村

さて、前置きが長くなりましたがスタツアでの体験を語らせていただきますと、パリに着いたときのウキウキ



マウメレにある事務所で説明を受ける

感はスタディーツアーに来ていることを忘れてしまうほどでした。綺麗な海やおいしい食事、陽気に日本語で挨拶してくれる現地の人たち…南国の開放的で異国情緒あふれる雰囲気にとっても癒されました。しかし、このツアーはそんなのんびりなどさせてくれない(という愚痴を付け加え)すぐさまフローレス島へ。空港では、日本語をしゃべらなかつたら現地人だと思いつけたであろう彦坂さんを筆頭に現地スタッフの方々が迎えに来てくれ、フローレス島にいる間は代表者である田中直さんをはじめとするスタッフの皆さんにお世話になりました。

着いたその日にはフローレスにある事務所でジャトロファの事業説明を受けました。ジャトロファを植えることによって得るメリットは、荒地の緑化・油の採取・殻等で作るコンポストやバイオマスエネルギー、そして当事者たちの所得増加…etc.事業計画、現状、先の見通しと計画性のあるプロジェクトで無駄がないという印象を受け、また翌日に訪れる現場が楽しみになりました。そして事業地であるレロロジャ村へいくことに。村へ行く途中にみた綺麗な海…よりも反対側にある野焼きにあった荒地化していた山のほうが個人的にとっても印象深かったです。しかし、逆に捉えればこんな荒地でも育つというジャトロファに大きな可能性を感じました。

レロロジャ村に到着して得た印象は「思ったよりひどくない！」という感じでした。と、いうのもゼミでこのところアフリカの貧困問題を勉強していたのでものすごい貧困を想像して行ったためなのですが、実際に村人は極端な貧困や食糧不足といったことで暗い感じはなく、むしろ笑顔で暖かく迎え入れてくれました。特に村長さんは陽気な方でした。とはいえ、気候に大きく左右されてしまう生活を送っているだけにやはり生活基盤は不安定なものといっていました。レロロジャ村での体験として集会所でAPEXと村との事業打ち合わせに参加さ

せていただくことになりました。参加してみてレロロジャ村がこの事業に大きな可能性と期待をもっていることがわかり、またその強い思いがヒシヒシと伝わりました。村人達が打ち合わせに参加し、真剣に話を聞いて意見や疑問をぶつけるさまを見てAPEXがいうコミュニティー主体がとても大きな意味を持つということであらためて実感しました。この打ち合わせに参加できたことは僕自身とても貴重な体験であったと思っています。

打ち合わせ後に間食として出されたスナック(キャッサバや生魚のあえたもの)や地酒の味はなんとも表現が難しく「おいしい」というより「趣き深い」が正解なのではないかと思いました。的確な表現ができないので是非自分の足でレロロジャ村へ一度行ってください。また、ジャトロファ事業は世界的にあちこち行われている事業で成功例もありすでにビジネスとして動いているところもあります。レロロジャ村では始まって間もないプロジェクトですが自分で植えたジャトロファの苗木(「世界樹」と命名)ともども大きな事業に成長していったほしいと思います。

モニ クリムトゥ山

レロロジャ村を後にして、クリムトゥ山に行くため山から一番近い村である「モニ」へ。道中山道でみんながダウンする中、自分はジェットコースターのようなスリリングなドライブを楽しんでいました。途中で寄った博物館ではフローレスの歴史を知ることができまし



夜明けと共にクリムトゥ山のカルデラ湖をのぞむ

た。アジア圏内でも文化の違いはあると思っていましたが、雨乞いのために生贄で人が捧げられるのはさすがにびっくりしました。

半袖では寒すぎるモニは、温泉がわいていて公共浴場で村人がお風呂を楽しんでいました。宿で極寒のシャワーしか浴びられないと知っていたら、僕も一緒にお風呂に入っていたことでしょう。とても後悔しました。

夜になると民族舞踊を毎日踊っているらしくそれを見に行くことに。会場ではタイやアメリカ、フランス人もいてさすが観光名所だと思いました。舞踊もすばらしく、子供たちのがんばりや、お母さんたちのクリムトゥ山をたたえる歌声は素敵でした。

明け方4時・・・真冬のような外の夜空には星がきらめき、南半球ならではの夏のオリオン座を見つけたときはすごい感動を覚えました。そのなかを、車と徒歩でクリムトゥ山の山頂を目指すこと約2時間。山頂からは幻想的な湖と、人生で一番感動的な日の出を見ることができました。単純ではありますが自然ってすごいと思いました。この感動を皆さんと共有したいので是非1度クリムトゥ山に行ってみてください！

ジョグジャカルタ

フローレス島を発ち、ジョグジャカルタへ。

日本でいう京都みたいなところと聞いていたとおり、見所も食べ所もお土産どころもたくさんあって市内観光はとても満足できました。スルタンプレイスや世界遺産でもあるボロブドゥールはインドネシアの文化と歴史を感じることができる古都でありました。

ジョグジャでは現地NGOであるディアン・デサ(YDD)の本部があり、バイオマス事業や排水処理事業の現場視察を行ってきました。インドネシアを代表するNGOとだけあって本部はしっかりして大きかった印象があり、文系の僕にはわからない研究施設や研究員が実験をしていました。その技術の集約であるバイオマスガス化装置が作られ、レロロジャ村をはじめとする各地に応用されていくと考えると重要な拠点である



ジョグジャ1の繁華街、マリオボロ通り

とあらためて思いました。排水処理事業のモデルとして行われたクリチャック地区とスクナン地区の視察をして感じたことは、どちらもこの事業をよるこんで受けていたということです。スクナン地区は元々エコ活動に興味を持っており積極的に活動していたらしく、それはそれで珍しく印象的ではあったのですが、個人的にクリチャック地区のほうの成功モデルが実りあるなど思いました。

この地区の特徴としては人口密集地帯で相対的に貧困地区だという印象がありました。さらに、地区内でも経済格差はあり、人間関係も意外と複雑らしく排水処理事業を行ううえでの障害となったみたいです。しかし、格差を利用して高所得の人が低所得の人をカバーしてトイレの取り付けの援助をするなど現段階ではコミュニティー運営がうまくいっているらしいです。当事者とAPEXの度重なる話し合いや、当事者で工事をして、当事者で運営していくこの事業はコミュニティーベースの事業だからこそ成功していると思います。ただでもらったものは大事にしますが、自分で買ったものや作ったものは大事にしていこうという心理が働き、自分たちが参加し、主体であることを自覚させます。与えるだけや、やってあげるだけのNGOが失敗していくなかAPEXのやり方はとても効果的で効率的だと思いました。装置の技術はもちろんですが、サポートされる側を能動的にしていこうということも同じくらい気をつかい、時間をかけなければいけないと思いました。

装置や地区の説明してくれたコミュニティーの人たちは自分たちのプロジェクトを自信と誇りをもっていきいきと話してくれました。この成功モデルを各地域に普及していったら、下水道普及率2.21%のインドネシ



クリチャック地区の排水処理施設



排水処理設備は住民が管理・運営している

アの現状を打破してほしいと思います。

まとめ

インドネシアに行ってきた感想としましては雰囲気がフィリピンに似ているなー、と思うところでありました。そしてインドネシアが好きになりました。全般的に食事はおいしかったですし、何より人柄がよかったです。コミュニケーションも意外と英語が通じて、足りないところは気持ちで補って会話をしました。みんないい人に思えました。これがメキシコ人の場合だと裏があるのは間違いないのですけど…。

このスタディーツアーに参加した皆さんはそれぞれ違う目的で参加しているわけですが、僕の場合はNGOそのものやNGOの活動を評価するという、(上から目線にも聞こえるような感じですが、)目的もありました。しかし、このように携わるのも何かの縁と考え、エコノミストとしてこのAPEXのお手伝いができたらなあ、と思っています。それでこそこのNGO論が社会で役に立つものとして存在価値があるのだと思っています。APEXは今回がスタディーツアー1回目ということで僕らは1期生になるのですが、

ジャトロファプロジェクトもはじまったばかりで、年を追うごとに事業の進展が見られるのはうれしいことで勉強にもなります。今後の大きな発展に期待しています。

最後に一緒にスタディーツアーに参加した皆さん含めAPEXや現地スタッフ、スタツアで出会った皆さんに感謝したいと思います。

星みつ、い・た・だ・き・ま・し・た！～インドネシア料理～



ミーゴレン(左)

やめられない止まらない…カンクン(右)



絶対欠かせないよね！ベストパートナー、ピントアンビール



見た目もきれいなフレッシュジュース



サテ、とりあえず焼き鳥でも。



ガドガド、意外とボリュームー



フローレスでは新鮮なお魚料理が最高！